

## 海外事情調査報告書

渡航先 ベルギー、フランス、リトアニア

日 程 自 平成29年8月30日

至 平成29年9月8日

渡航議員 小川恒雄（政務活動）

森 正弘

佐藤武彦

水野正敏

若井敦子

調査目的 ベルギー・フランス・リトアニアでの岐阜県の  
PR活動と現地における経済・流通状況や観光  
事情の調査

## 【8月31日概要】

- (1) ワーテルロー古戦場 (MEMORIAL1815 等) 視察
- (2) 関ヶ原古戦場とワーテルロー古戦場の姉妹古戦場協定締結式 出席

### (1) ワーテルロー古戦場 (MEMORIAL1815 等) 視察

#### ○日時

平成29年8月31日 (木) 9:45~14:50 (現地時間)

#### ○場所

ワーテルロー古戦場 [ベルギー・ワーテルロー]

#### ○出席者

[ 県 ] 知事、観光国際局長

[県議会] 村下貴夫議長、藤埴守議員、松村多美夫議員

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

[市町村] 関ヶ原町長

#### ○概要

- ・ワーテルロー古戦場を、古戦場管理団体代表 (ナタリ・ドゥ・パーク・ロックマリア氏) らの案内により視察。
- ・視察後、古戦場がまたがる4市1州 (ブレン・ラルー市、ワーテルロー市、ジュナップ市、ランヌ市、ブラバン・ワロン州) 及び古戦場管理団体「L'intercommunale Bataille de Waterloo 1815」の関係者との昼食懇談会に出席。

## 【ワーテルロー古戦場の施設】

**ウェリントン博物館** イギリス軍を率いたウェリントンが過ごした宿場駅が博物館となっていて、戦いの経過を説明する図表、当時の書類、武器、調度品等の展示があった。

**ナポレオン最後の司令部博物館** フランス軍を率いたナポレオンが過ごした建物が博物館となっていて、当時の武器、野戦装備、ジオラマ等の展示があった。

**MEMORIAL1815** 戦争から200周年の節目となる2015年にリニューアルオープンした、総面積6,000㎡のビジターセンターでは、最先端4D映像システムやCGが導入され、武器等のレプリカや軍装等の展示があった。

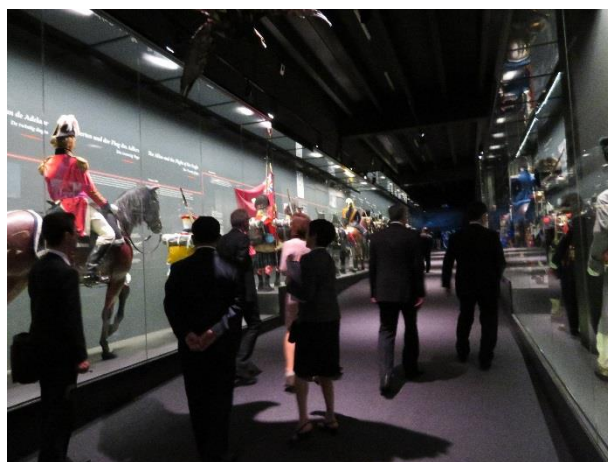
**パノラマ館** 幅12m、長さ110mの巨大なキャンバスに1815年の戦闘場面が詳しく描かれていた。

**ライオンの丘** 戦いで命を落とした各国兵士の冥福を祈り、1826年にオランダが建設。丘の上まで階段で登り、古戦場を一望した。

**ウーグモン農場** 1815年6月18日にイギリス・オランダ連合軍とナポレオンのフランス軍が激戦を行った農場。戦闘シーンの上映や武器の展示があった。

## ○考察

- ・古戦場の運営や活用の方法について丁寧に説明を受け、関ヶ原古戦場を貴重な歴史資産、観光拠点として、今後有効に活用していくため大いに参考となった。
- ・経過を説明する図表や当時の書類、武器、調度品等が分かりやすく展示され、戦争の史実が忠実に紹介されていた。また、戦闘場面が360度に描かれたパノラマ展示、最先端4D映像システムやCGを導入した映像アトラクションなどにより、戦争の様子をよりリアルに感じられるよう趣向を凝らしていた。日本語音声付の案内があったが、世界からの観光客に対応するためには多様な言語対応が必要である。
- ・226段の階段を片道約10分かけて、ライオンの丘を登ったが、ダイナミックな古戦場の景色を展望でき印象的であった。多くの観光客を集めるには、歴史的舞台の雰囲気やさまざまな形で体感することができる工夫が有益であると感じた。



## (2) 関ヶ原古戦場とワートルロー古戦場の姉妹古戦場協定締結式 出席

### ○日時

平成29年8月31日(木) 15:00~16:00 (現地時間)

### ○場所

MEMORIAL1815 ビジターセンター 玄関ホール [ベルギー・ワートルロー]

## ○出席者

### <協定締結者>

ナタリ・ドゥ・パーク・ロックマリア ワーテルロー古戦場管理団体代表  
西脇康世 関ヶ原町長

### <立会者>

ジール・マイユ ブラバン・ワロン州知事  
岐阜県知事

### <ワーテルロー古戦場関係者>

ヴァンサン・スクルネオ ブレン・ラルー市長  
ジェラルド・クロネ ジュナップ市長  
カリン・ビア・ラグランジュ ランヌ市助役  
フォルランス・ルター ワーテルロー市長 他140名

### <関ヶ原古戦場関係者>

[ 県 ] 観光国際局長  
[ 県議会 ] 村下貴夫議長、藤埴守議員、松村多美夫議員  
小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子  
[ 国 ] 駐ベルギー日本国大使

## ○概要

- ・ 昨年のアメリカ・ケディスバーク古戦場に続き、関ヶ原町とワーテルロー市が世界古戦場を契機とした今後の交流を発展させるため、古田知事、ブラバン・ワロン州知事をはじめ、ワーテルロー古戦場関係者及び県議8名を含む県・関ヶ原古戦場関係者、総勢約150名が立会いのもと、西脇康世 関ヶ原町長とナタリ・ドゥ・パーク・ロックマリア 古戦場管理団体代表が姉妹古戦場協定書に署名。
- ・ 協定締結式終了後、カクテルレセプションに出席。

## ○考察

- ・ 姉妹協定締結を契機に、関ヶ原古戦場とワーテルロー古戦場が更なる交流を発展させ、古戦場の保全・管理、ビジターセンターの設置・運営、展示プログラムの作成、文化・教育プログラムの作成、観光ルートの造成など、多様な視点で関ヶ原古戦場の魅力向上につなげていくことを期待するし、県議としてそれに協力していきたいと思う。





## 【9月1日概要】

- (1) 在ベルギー日本国大使館 訪問
- (2) 欧州連合日本政府代表部 訪問
- (3) JETRO ブリュッセル事務所 訪問

### (1) 在ベルギー日本国大使館 視察

#### ○日時

平成29年9月1日（金） 10：30～11：00（現地時間）

#### ○場所

在ベルギー日本国大使館 [ベルギー・ブリュッセル]

#### ○面談者

林 肇 特命全権大使、生駒 聡 一等書記官

#### ○出席者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

#### ○概要

- ・昨日開催された関ヶ原古戦場とワーテルロー古戦場の姉妹古戦場協定締結式及び関連行事へのご出席、ご挨拶をいただいたことへの御礼を議員団として申し述べた。
- ・ワーテルロー古戦場と1815年以降のヨーロッパの歴史について意見交換の後に、欧州の首都とも言われるベルギー・ブリュッセルの重要性や、最近のベルギー情勢、日本とベルギーの経済関係等の話を林大使から伺った。

#### ○考察

- ・日本とベルギーの皇室、王室の交流、安倍総理とミシェル首相の会談など緊密な二国間関係に触れながら、種々な話題に及び、ヨーロッパ全体の大きな課題はイギリスのEU離脱問題、北アフリカからの難民問題の2点であること、離脱のルールができていないのでこの問題は簡単にはいかないこと、人も物も自由に移動できることを規制するのは非常に大変であると感じた。
- ・ヨーロッパの中では、最も多くの日本企業が進出しているのはイギリスであるが、銀行、保険、証券などの業界は既に、アムステルダムやフランクフルトに拠点を移していることなど、ヨーロッパの抱える課題は島国日本では到底想像できないことが多く、改めて大陸で国境を接する国々の多様性を感じた。





## (2) 欧州連合日本政府代表部 視察

### ○日時

平成29年9月1日(金) 11:00~12:00 (現地時間)

### ○場所

欧州連合日本政府代表部 [ベルギー・ブリュッセル]

### ○面談者

河野 章 大使

### ○出席者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

### ○概要、考察

- ・政治、経済の統合体であるEU(欧州連合)の概要について河野大使から説明を受けた。
- ・加盟国28か国、人口5.1億人、GDP16.3兆ドル、世界のGDPの約22%、予算は17兆円、人、モノ、サービス、資本の移動が自由、単一通貨はユーロ(€)、国境検査なし=移動の自由、欧州理事会(首脳協議)、EU理事会(閣僚協議)、欧州議会(EUの予算、EU法の審議、承認)、欧州委員会(執行機関)の役割、構成要件などを説明していただいた。
- ・その後、昨今の欧州内の主な動きとして、フランス大統領選挙、英国の総選挙など一連の選挙と英国のEU離脱について河野大使の見解を伺った。ここでも、英国の離脱協定の交渉は容易でない旨の話、また、EU加盟国は先進的な国が多く、ここでの議論や決定が世界基準となることもあり、日本政府も大変関心を持っているとのこと。日本の考えを入れ込むための活動が重要であり、ここでも日本外交の難しさを実感した。



### (3) JETROブリュッセル事務所 訪問

#### ○日時

平成29年9月1日（金） 14:00～15:00（現地時間）

#### ○場所

JETRO（独立行政法人日本貿易振興機構）ブリュッセル事務所 [ベルギー・ブリュッセル]

#### ○面談者

前田篤穂 次長

#### ○出席者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

#### ○概要、考察

- ・ジェトロ・ブリュッセル事務所は、1955年10月に欧州で最初に設立された。人員は駐在員5名、現地スタッフ6名の計11名。所管地域は「欧州連合（EU）」「ベルギー」「ルクセンブルク」。主たる業務は外国企業および外資系企業による対日投資の促進、農林水産品の輸出促進などである。
- ・欧州における政治経済、産業動向と題し、以下の項目について説明を受けた。
  1. 欧州の経済情勢、2. 政治、政策課題、3. 欧州主要産業の動向、4. 日欧関係の状況
- ・その中でも、EUを取りまく諸問題として、「グローバリズム」と「ポピュリズム」に翻弄される現状と、EUの基本理念である「消費者保護」「地域保全」「労働者の権利保護」「環境への配慮」、これらをハイレベルの水準で維持することが大きな課題であること。
- ・EU域内の所得格差（ルクセンブルク対ブルガリアで、GDP比14倍の格差）是正の限界、多発するテロ事件や移民難民の流入問題については、特別関心を持って伺った。日欧関係の中では、我が国の地場産品の対欧輸出事例として、家田紙工（美濃和紙）が世界最高峰のインテリアデザインの見本市「メゾン・エ・オブジェ」（パリ）へ出展し、2008年1月、ジェトロブース利用を通じてヨーロッパ市場へ参入、その後の展開についても説明を受けた。





## 【9月2日概要】

(鉄道にてベルギー・ブリュッセルからフランス・コルマルへ移動)

### Konjaku (今昔、グローバルアンテナショップ候補店) 視察

#### ○日時

平成29年9月2日(土) 18:30~19:00 (現地時間)

#### ○場所

Konjaku (今昔) [フランス・コルマル]

#### ○面談者

オスモン・ファビアン オーナー

#### ○出席者

[ 県 ] 知事、観光国際局長、観光国際戦略アドバイザー

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

[ 市町村 ] 郡上市長

#### ○概要

GAS (グローバルアンテナショップ) 候補店であり県産品のテストマーケティングを行っているセレクトショップ「Konjaku (今昔)」を訪問。県内酒造事業者(恵那市の岩村醸造代表取締役 渡曾光晃氏)が講師となって行った地酒試飲会など販路拡大に向けたPR活動も視察した。

※GAS (グローバルアンテナショップ) とは、海外主要都市に設置する県産品の継続販売拠点。フランス(パリ)、スイス(チューリッヒ)、シンガポール、アメリカ(オークランド、ニューヨーク)に開設している。

#### ○所感

- ・日本の地場産品を取り扱っているセレクトショップで、県から岐阜県産品である陶磁器、刃物、和紙等の販売品を紹介したところ、オーナーが大変興味を持たれて、今回のテストマーケティング実施に至ったとのこと。
- ・オーナーは熱心な方で、岐阜県産のこだわりの品々が、店内に魅力的に配置されていた。世界各国のGASが広告塔となり、県産品の知名度向上と販路拡大に大いに期待する。



## 【9月3日概要】

### アルザスウォークイベント 参加

#### ○日時

平成29年9月3日（日） 8：50～14：00（現地時間）

#### ○場所

スタート：キーンツハイム（アルザス・欧州日本学研究所）、ゴール：リクヴィル（約7km）

#### ○参加者

[ 県 ] 知事、環境生活部長、観光国際局長

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

[ 市町村 ] 郡上市長、白川村長

[ 民間 ] ONSENガストロノミーツーリズム推進機構理事長、専務理事

#### ○概要

- ・ 県と友好交流先であるオ・ラン県で開催された「アルザスふれあいウォーク」（ANAセールス株式会社主催）に参加し、フランス・アルザス地方の美しい自然を楽しみながら、現地の人々と一緒に歩くことで、更なる友好交流を深めた。
- ・ 途中、アルザス地方特産のワイン試飲会場が用意され、アルザス郷土料理とともに楽しむことができた。運営スタッフを含め、合計約150名が参加した。地元リクヴィル村と友好交流関係のある白川村長も共に参加した。

#### ○所感

- ・ 地域の土地を歩きながら、地域に根差した食、その背景にある地域の自然や歴史、文化等の魅力に触れることを目的とした旅の形態「ガストロノミーツーリズム」が欧米で注目されており、地域社会の持続可能な発展、雇用の促進にも重要な役割を担っている。
- ・ フランス・アルザス地方の特産であるブドウ畑の景色を楽しみ、途中、特産のワインや郷土料理も味わいながら、地元の方と交流を深めることで、魅力を大いに体感することができた。
- ・ 岐阜県は、平湯温泉や下呂温泉といった観光資源に恵まれており、温泉地を起点に、地域の食や景観を楽しむONSEN・ガストロノミーツーリズムを推進することとしており、今後、観光誘客に大いに期待できると感じた。





### 【9月4日概要】

- (1) J N T O (日本政府観光局) パリ事務所 視察
- (2) C L A I R (一般財団法人 自治体国際化協会) パリ事務所 視察
- (3) L' e m b r a s s e r 視察
- (4) E t u d e (パリ飛驒牛海外推奨店) 銘板授与式 出席
- (5) 日本へのクリエイティブな旅展 (ユネスコ JAPAN ウィーク) オープニングセレモニー 出席

### (1) J N T O パリ事務所 視察

#### ○日時

平成29年9月4日(月) 9:30~10:15 (現地時間)

#### ○場所

JNTO (日本政府観光局) パリ事務所 [フランス・パリ]

#### ○面談者

中山理映子 JNTO パリ事務所長、 浮田さくら JNTO パリ事務所次長

#### ○出席者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

#### ○概要

- ・JNTO (日本政府観光局) とは、日本のインバウンド旅行市場を拡大する政府観光局として、国民の経済の発展、地域の活性化、国際的な相互理解の促進、日本のブランド力向上を実現することにより、未来の日本をより豊かに、元気に、明るくすることを目指している。
- ・正式名称は、独立行政法人国際観光振興機構 (国土交通省 観光庁所管)。
- ・国内拠点は本部となる東京。
- ・海外拠点は20事務所 (ソウル、北京、上海、香港、ジャカルタ、デリー、シンガポール、バンコク、ハノイ、クアラルンプール、シドニー、ニューヨーク、ロサンゼルス、トロント、ローマ、ロンドン、マドリード、フランクフルト、パリ、モスクワ) ※マニラ開設準備中
- ・JNTO の主な活動は、訪日旅行市場に関する市場分析・マーケティング、海外現地メディアを通じた広告・宣伝、国際会議の誘致・開催促進、海外現地旅行会社の訪日ツアー企画・販売の促進、ウェブや SNS

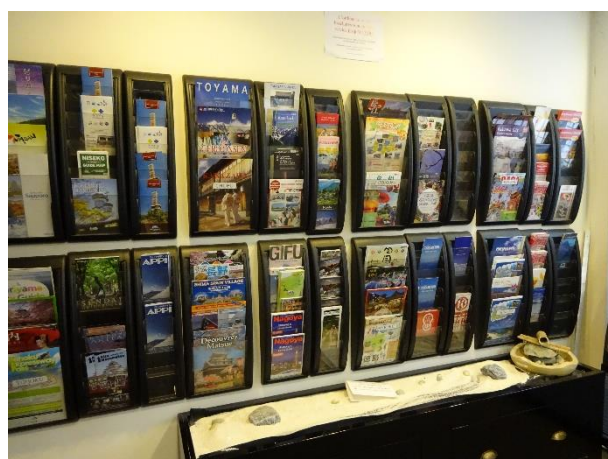


を通じた訪日観光の情報提供、受入環境整備・向上支援など。

- ・海外からの訪日観光客の推移は、東日本大震災の影響で2011年には6,219千人と落ち込んだが、その後右肩上がり増加。2016年では24,039千人。
- ・フランスからの訪日観光客の推移は、同様に2011年は95,438人と落ち込んだが、その後右肩上がり増加。2016年では253,400人。
- ・新たな目標（訪日外国人旅行者数と訪日外国人旅行消費）  
2020年→4000万人・8兆円、2030年→6000万人・15兆円。
- ・フランス人に人気の訪問先は、ゴールデンルートと言われる東京・京都・奈良、そして富士・箱根、兵庫（姫路城）、広島・宮島、高野山、岐阜県では高山・白川郷。
- ・旅行で訪日するフランス人の9割が個人旅行とのこと。
- ・JNTOパリにおける2017年度の主な取り組みは、これまでのメディア支援・情報発信、旅行会社支援、広報事業、旅行博などに加えて、富裕層、ポップカルチャー、ラグビーワールドカップ2019、ハネムーンと、ターゲットを絞った活動を計画・実施。
- ・ヨーロッパの中でもフランス人の訪日旅行者はリピーター率が高い。ゴールデンルートの次は違う場所を訪れたいという旅行者が多く、次の旅行先として新たな場所を紹介している。
- ・訪日旅行者のアンケートでは、満足度が高いとのこと。
- ・桜が人気で、4月に訪日旅行者が集中。桜の開花に左右されない他の季節もPRしているとのこと。

## ○所感

- ・観光地におけるリピーターの確保や観光消費額のアップが求められている中、本県が世界的な観光地としてさらなる成長を遂げるには、これまでの取組みに加え、効果的な魅力発信や新たな需要の取り込みが不可欠である。
- ・2017年コルマルで開催された旅行博（SITV）では、岐阜県も出店。またポップカルチャーでは、飛騨市ゆかりのアニメ映画『君の名は。』の人気もあり、この機運に乗じて本県ならではの周遊・滞在型観光を定着させることは、観光消費のさらなる拡大や、観光産業の基幹産業化に繋がる。
- ・今後もJNTOとの連携により、インバウンドの拡大が期待される所。







## (2) CLAIR (一般財団法人 自治体国際化協会) パリ事務所 視察

### ○日時

平成29年9月4日(月) 10:30~11:30 (現地時間)

### ○場所

CLAIR (一般財団法人 自治体国際化協会) パリ事務所 [フランス・パリ]

### ○面談者

羽白淳 CLAIR パリ事務所所長、川畑英之 CLAIR パリ事務所所長補佐、  
古橋悦子 CLAIR パリ事務所次長

### ○出席者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

### ○概要

- ・ CLAIR (クレア) とは、自治体の国際化推進を支援すること等を目的とする自治体の協同組織。
- ・ 国と地方自治体が共同して JET 事業 (※) を実施するための組織として昭和61年10月に設立。  
※JET 事業とは、外国青年を招致して地方自治体で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流推進を図る事業。
- ・ 平成29年4月2日現在、114人の自治体職員が活躍している。
- ・ 業務の7本柱は次のとおり。
  - ①自治体の海外における経済活動の支援

②多文化共生のまちづくりの支援

③草の根交流と次世代グローバル人材を育成する JET プログラムの推進

④多様な国際交流・国際協力の支援

⑤自治体のニーズに応える情報の収集・発信の強化

⑥自治体のグローバル人材の育成

⑦自治体の海外拠点としての海外事務所

- ・パリ事務所は平成2年10月に開設。
- ・クレアパリの担当地域はフランスだけでなく、ベルギー、ルクセンブルク、スイス、イタリア、スペイン、ポルトガル。
- ・クレアパリの方針は、自治体からのあらゆるオファーに対しゼロ回答はせず、対話を重ね的確に次に繋ぐこと。
- ・平成28年度の活動支援件数は85件。
- ・活動支援依頼に対し、トータルサポーターとして責任担当者を決定。関連分野のキーパーソンへのつながりや、大使館、JETRO、JNTOなどと連携を取りながら、アポ取りやアテンド、荷物の受け取り・保管、緊急対応などのサポートも行っているとのこと。
- ・各団体の代理として事前協議も行っており、平成25年5月には岐阜県とミディエール・ピレネー州との事前協議を行った。
- ・在仏国際機関等との連携。クレアパリは、ユネスコやOECDの本部所在地にあることから、各機関や日本政府代表部への調査活動や要望活動の支援も行っているとのこと。

【支援例】群馬県及び富岡市、京都府、岐阜県⇒ユネスコ世界遺産登録（製糸場、和食、和紙）に向けた情報提供等の活動支援

- ・パリ以外の地方都市で開催される日本関連イベントや観光イベントに、クレアブースを設置し（年3回を予定）、フランス地方における日本の情報発信も強化しているとのこと。
- ・世界レベルの主要展示会（ジャパン・エキスポ、国際観光見本市、国際食品見本市、メゾン・エ・オブジェ）への、イベント情報の提供や参加に向けた働きかけなどの出展支援も行っている。

## ○所感

- ・クレアパリは、広義に解釈すると両国の自治体をつなぐ通訳的な存在であり、自治体の国際協力や交流を進める役割を担うもの。
- ・グローバル化が進展する中、自治体においても海外との地域間連携などによる地域の活性化を図ることが必要。地域レベルでの草の根の国際化を推進していくことが大切。
- ・国際交流などを通じた地域の国際化支援、海外自治体幹部の交流協力セミナー、地域間国際交流推進事業を活用し、本県の地域の強みや特性を活かした海外自治体とのネットワーク作りが今後期待される場所。



### (3) L' embrasser (ランブラッセ) 視察

#### ○日時

平成29年9月4日(月) 13:00~14:00 (現地時間)

#### ○場所

L' embrasser (ランブラッセ) [フランス・パリ]

#### ○参加者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

#### ○概要

- ・オーナー夫妻のフィリップ・シャヌレ・ダーデン氏、池田 由香 (いけだ ゆか) 氏のセレクトショップで、美濃和紙の展示や、岐阜県の地場製品の販売、観光情報の発信を行っている。
- ・美濃和紙の展示をはじめ、陶磁器や木工製品、美濃和紙製品などの県産品50品目の商品を陳列。
- ・オーナー夫妻は、「岐阜県のものづくりの魅力をパリで伝えていく」とのこと。
- ・岐阜県の観光パンフレットも設置されており、情報発信にも協力をいただいている。

#### ○所感

- ・オーナー夫妻が厳選した「清流の国ぎふ」ならではの逸品の販売は、岐阜県ならびに県産品の認知度とイメージの向上に期待できる。
- ・岐阜県の情報発信が多いとは言えない現況において、本県の魅力発信に大いに期待される所。
- ・今後も幅広いジャンルの品揃えで、引き続き本県のPRやブランド力向上にご協力いただきたい。









#### (4) Etude (エチュード) 飛騨牛海外推奨店銘板授与式 出席

##### ○日時

平成29年9月4日(月) 15:30~16:30

##### ○場所

レストランEtude (エチュード) [フランス・パリ]

##### ○出席者

[ 県 ] 知事、農政部長、観光国際局長

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

[ 団 体 ] 全国農業協同組合連合会岐阜県本部長

[ 国関係 ] 駐仏日本国大使、JETRO パリ事務所次長

##### ○概要

- ・シェフ兼オーナーの山岸 啓介(やまぎし けいすけ)氏が2013年9月にオープンしたフレンチレストランで、今年秋からパリ市内で初めて本格的に飛騨牛を取り扱うとのこと。
- ・パリ市内では、初めての飛騨牛海外推奨店(※)。  
※飛騨牛銘柄推進協議会が認定している制度。日本国外において営業し、5等級及び4等級の飛騨牛を定期的に仕入れ、年間50kg以上使用する販売店・料理店で、同協議会の趣旨に賛同する店舗。
- ・木寺 昌人(きてら まさと)駐仏日本国大使から山岸オーナーへ、「日本が輸出に取り組む和牛の中でも、最もブランド価値の高い飛騨牛を本格的にフランスの皆様を提供していただくことを喜ばしく思う」とのお祝いの言葉。
- ・山岸氏は、「飛騨牛を聞きつけ、楽しみに訪問されるお客様もいる。」「飛騨牛は大好きな食材。海外推奨店に認定していただいたことに感謝している。パリで一番の店を目指す。」と述べられた。
- ・銘板授与式の後には、現地マスコミ10社等を招き飛騨牛の試食会が行なわれ飛騨牛の魅力をPR。

##### ○所感

- ・試食会では、飛騨牛の美味しさに参加者は舌鼓を打ち、このような飛騨牛を食べる機会を創出することは、更なる飛騨牛のブランド化を進めるにあたり有効である。
- ・美食の街と言われるパリにおいて高い評価を受けたことは、消費市場としてのポテンシャルが高く、今後の飛騨牛の販路拡大の手応えを得た。







**(5) 日本へのクリエイティブな旅展（ユネスコ JAPAN ウィーク） オープニングセレモニー 出席**

○日時

平成29年9月4日（月） 18:00～18:45

○場所

ユネスコ本部 [フランス・パリ]

○出席者

<ユネスコ関係者>

松浦 晃一郎 実行委員会会長（元ユネスコ事務局長）

ゲタチャー・エンギダ ユネスコ事務局次長

マイケル・ウォーブス ユネスコ執行委員会委員長

佐藤 地 ユネスコ日本政府代表部大使

木曾 功 実行委員会副会長（元ユネスコ日本政府代表部大使）

各国ユネスコ大使

<岐阜県関係者>

[ 県 ] 知事、農政部長、観光国際局長、観光国際戦略アドバイザー

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、水野正敏、若井敦子

[ 市町村 ] 美濃市長、白川村長

## ○概要

- ・「伝統と継承と新たな文化の創造」をテーマとした日本の自治体等の観光・文化 PR イベントで、ユネスコ、観光庁、文化庁等の協力を得て実施。昨年初開催され今年で2回目。
- ・自治体では岐阜県、奈良県、長崎県の3県が出展。
- ・岐阜県を舞台としたアニメ映画のパネル展、日本遺産関連展示が行われた。
- ・イベント期間中、岐阜県関連映画「ルドルフとイッパイアッテナ」、「花戦さ」の特別上映会が行われた。
- ・岐阜県展示ブースには、美濃和紙を使用した壁面装飾や、世界に誇る遺産が写真パネルで PR 展示され、陶磁器などの地場産品も展示。
- ・実演では、来場者に飛騨牛の試食や地酒の試飲が行われた。
- ・オープニングセレモニーでは、古田知事が元ユネスコ事務局長やエンギダユネスコ事務次長らとともに、鏡割りをを行った。

## ○所感

- ・来場者からは、「白川郷や高山は知っていたが、飛騨牛や地酒、美濃和紙など素晴らしい遺産や食、モノがたくさんあることを知った」、「ぜひ一度岐阜を訪れてみたい」などの声が聞かれ、本県のイメージ向上に繋がった。
- ・観光地間の誘客競争は今後一層激化することが予想される中において、本県が世界に誇る遺産等を核とした観光誘客プロモーションは、世界に選ばれる観光地域となるために有効である。







(9月5日、フランスからリトアニアへ移動)

## 【9月6日概要】

- (1) 杉原千畝ルート・杉原記念館 視察
- (2) 杉原シンポジウム 出席
- (3) 音楽コンサート 出席
- (4) カウナス市長主催レセプション 出席

### (1) 杉原千畝ルート・杉原記念館 視察

#### ○日時

平成29年9月6日(水) 9:00~12:00

#### ○場所

リトアニア・カウナス市内

#### ○参加者

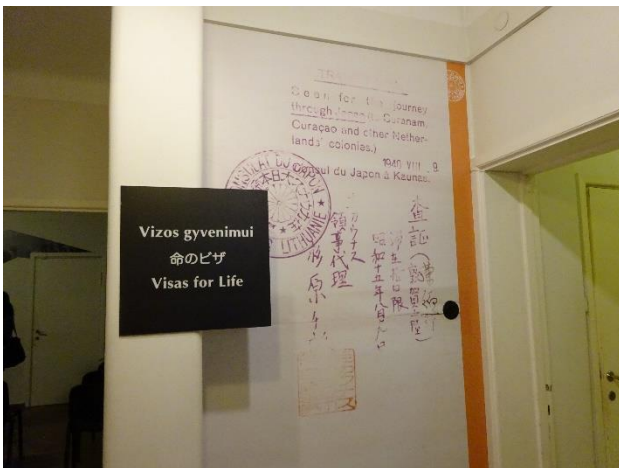
矢島成剛、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、伊藤秀光、水野正敏、小原尚、山本勝敏、山田優、若井敦子

## ○概要

- ・杉原ルートとは、カウナス市内の杉原千畝ゆかりの施設（杉原記念館、カウナス鉄道駅、ホテルメトロポリス）を巡る観光ルート。
- ・カウナス市は、ルート PR のため、昨年日本語の観光パンフレットを作成。
- ・杉原記念館は、第二次世界大戦中、当時のリトアニアの首都がおかれていたカウナスで、杉原千畝氏が領事館代理として任務にあたっていた旧日本領事館。
- ・1999年にリトアニアとベルギーの知識人、実業家によって設立された「杉原『命の外交官』基金」が中心となり、2000年に博物館として展示を開始。
- ・来館者数は、年間約1万5千人から1万6千人。
- ・3年前までは、来館者数は年間約8千人から1万人にとどまっていたが、杉原氏の功績が映画化されたことから増加。
- ・日本の政治家では、2006年に中曽根弘文氏、麻生太郎氏などの国会議員が訪問。
- ・カウナス鉄道駅は、杉原氏がリトアニアを去る時、列車が駅を離れる最後の瞬間までビザを書き続けた場所。その功績をたたえ記念プレートが設置。
- ・ホテルメトロポリタンは、日本領事館が閉鎖された時、杉原氏が滞在したホテル。ここでもホロコーストから逃げようとする人々にビザを書き続けた。その功績をたたえ記念プレートが設置されている。

## ○所感

- ・カウナス市内のあらゆるところに、今でも杉原千畝氏の功績が息づいていることに尊敬の念を抱く。
- ・杉原千畝氏のおかげで、リトアニアの方々が日本や岐阜県に好意を持っていただいていることを、身をもって感じた。







## (2) 杉原シンポジウム 出席

### ○日時

平成29年9月6日(水) 12:30～

### ○場所

国立チュリウリョーニス美術館 [リトアニア・カウナス]

### ○出席者

[ 県 ] 知事、観光国際局長

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、矢島成剛、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、伊藤秀光、水野正敏、小原尚、山本勝敏、山田優、若井敦子

[ 市町村 ] 八百津町長

[ 民間 ] 県商工会議所連合会会長

### ○概要

- ・日本及びリトアニアからの専門家の参加を得て、杉原千畝氏の功績を改めて見直し、日本・リトアニア・ユダヤ関係者の連携強化を図ることを趣旨として開催されたシンポジウム。
- ・カウナス市では9月2日から8日までを「スギハラウィーク(※)」とし、その一環のイベントであり、約100人が参加。

※スギハラウィーク Sugihara Group for Kaunas-Japan Relations Development (通称 Sugihara Group) が主催する日本とリトアニアの交流促進イベント。杉原千畝氏の功績を不朽にすることを目的に、今回初めて開催された。

- ・古田知事が基調講演を行い、杉原氏を縁に、八百津町での杉原ウィーク開催、壁塗りボランティアによるリトアニア杉原記念館の修復活動、音楽団交流、若者交流など、次々と新たな交流の企画が進んでおり、「まさに、杉原氏への共鳴の輪の広がりから、“人道”、“博愛”、“平和”をテーマとした新たな世界的な『大交流時代』が始まりつつある」、「この大交流時代の始まりに、改めて杉原氏に学び、人道の精神、いわゆる『杉原イズム』を人類の歴史の財産として、世界へと発信しながら、日本とリトアニア両国の交流を進めていきたい」などと述べられた。
- ・村瀬岐阜県商工会議所連合会会長が経済団体代表として登壇し、「岐阜県や八百津町などと官民一体となって、リトアニアに関する情報発信と官民レベルでの交流促進ができるような体制づくりを具体的に考えていきたい」などと挨拶。
- ・パネルディスカッションでは、金子政則八百津町長が「杉原千畝が見つないだカウナス市との友好交流」について発表。

### ○所感

- ・改めて、本県が誇る杉原千畝氏の偉大な功績に敬意を表し、後世に受け継ぐために今後どのように顕彰していくかなどを考える機会となった。
- ・スギハラウィークは、日本とリトアニアが国境を越えてお互いの文化を理解し合い友好親善を深めることができる機会。
- ・杉原千畝氏の偉大な功績のおかげで、リトアニアの方々が日本や岐阜県に好意を持っていただいていることを、身をもって感じた。





### (3) 音楽コンサート 寄付贈呈式 出席

#### ○日時

平成29年9月6日(水) 16:30~17:30

#### ○場所

カウナス市旧市庁舎 [リトアニア・カウナス]

#### ○主催者

ヴィスヴァルダス・マティヨシャイティス カウナス市長

## ○出席者

<リトアニア側>

リトアニア国会議員

カウナス市議会議員

ラムーナス・ガルバラヴィチュス 杉原「命の外交官」基金理事長

メイルーナス前駐日リトアニア大使 ほか

<日本側>

[ 県 ] 知事、観光国際局長

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、矢島成剛、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、伊藤秀光、水野正敏、  
小原尚、山本勝敏、山田優、若井敦子

[ 市町村 ] 八百津町長

[ 国 ] 駐リトアニア日本国大使

## ○概要

- ・杉原千畝氏を契機としたリトアニア、カウナス市との交流を推進することを趣旨として開催。
- ・リトアニア杉原記念館修繕支援募金実行委員会副会長の八百津町長から、ラムーナス・ガルバラヴィチュス 杉原「命の外交官」基金理事長に対して、1万ユーロの募金目録の贈呈が行われた。
- ・音楽コンサートは、世界で活躍する日本人演奏者によって行われた。

## ○所感

- ・募金目録の贈呈後、基金理事長からは「岐阜県の皆さんの温かい気持ちに大変感謝している」と謝意を述べられ、本県との絆が更に深まった。
- ・杉原千畝氏の偉大な功績と人道精神を、確実に次世代へ伝えていかななくてはならないと考える。





#### (4) カウナス市長主催レセプション 出席

##### ○日時

平成29年9月6日(水) 17:30~19:45

##### ○場所

カウナス市旧市庁舎 [リトアニア・カウナス]

##### ○主催者

ヴィスヴァルダス・マティヨシャイティス カウナス市長

##### ○出席者 約150名

<リトアニア側>

リトアニア国会議員

カウナス市議会議員

ラムーナス・ガルバラヴィチュス 杉原「命の外交官」基金理事長

メイルーナス前駐日リトアニア大使 ほか

<日本側>

[ 県 ] 知事、観光国際局長

[ 県議会 ] 村下貴夫議長、矢島成剛、小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、伊藤秀光、水野正敏、小原尚、山本勝敏、山田優、若井敦子

[ 市町村 ] 八百津町長

[ 国 ] 駐リトアニア日本国大使

[ 民間 ] 県商工会議所連合会会長、塗魂インターナショナル会員、文化団体 ほか

##### ○概要

・杉原千畝氏を契機としたリトアニア、カウナス市との交流を推進することを趣旨として開催。

##### ○所感

・古田知事が挨拶の中で「スギハラウィークは、岐阜県とリトアニア、カウナス市と八百津町、日本とリトアニアとの交流の新しい懸け橋。八百津町で開催される杉原ウィークと併せ、定番行事となり永遠に続いていくことを願う。」と述べられ、杉原千畝氏の功績を顕彰する大きな一歩となった。





## 【9月7日概要】

(1) 杉原桜公園 視察

(2) 国立ユダヤ博物館 視察

その後、帰国のためビリニュス空港に移動後、ドイツフランクフルト空港へ

### ○日時

平成29年9月7日(木) 9:00~12:00

### ○場所

リトアニア・ビリニュス市内

### ○参加者

小川恒雄、森正弘、佐藤武彦、伊藤秀光、水野正敏、若井敦子

### ○概要

#### (1) 杉原桜公園

- ・杉原桜公園はビリニュス中心を流れるネリス川沿いにあり、緩やかな傾斜上にあるオープンスペース。
- ・入り口にあたる場所に、杉原千畝氏の功績をたたえるモニュメントが設置されている。
- ・このモニュメントは、杉原氏の母校である早稲田大学の卒業生が中心となって、杉原氏の生誕100年を記念して2001年に建立。
- ・公園内には同じく卒業生らによって、約200本の桜が植樹されている。

#### (2) 国立ユダヤ博物館

- ・国立ユダヤ博物館は、第2次世界大戦時にナチスの犠牲になったユダヤ人の資料が展示されている。
- ・博物館の前庭には、杉原氏に捧げられたモニュメント「月光」が設置されている。

### ○所感

- ・ビリニュス市内のあらゆるところに、今でも杉原千畝氏の功績が息づいていることに尊敬の念を抱く。
- ・改めて杉原千畝氏のおかげで、リトアニアの方々が日本や岐阜県に好意を持っていただいていることを、身をもって感じた。







